

NIEワークシート／小学校高学年／高校／音楽、社会、総合

ピアノと医師 夢は「二刀流」



「音楽でも患者を癒やせる医師になりたい」と話す沢田蒼梧さん＝8月、神戸市中央区、神戸新聞松方ホール(撮影・吉田敦史)

来月、シヨパンコンクール出場

シヨパンコンクールは1927年に創設され、5年に1回開催。著名なピアニストを生んできた場で知られる。日本人は37年に神戸市須磨区出身の原智恵子さんが特別聴衆賞を受賞。以後、

世界三大コンクールの一つで、10月にポーランドで開かれる「シヨパン国際ピアノコンクール」に、医師と奏者の「二刀流」を目指す日本人が出場する。8月に松方ホール音楽賞奨励賞を受けた名古屋大医学部5回生の沢田蒼梧さん(22)は愛知県半田市で、7月のシヨパンコンクール予備予選を突破し、87人の出場者に名を連ねた。「歴史ある舞台で優秀なピアニストと演奏できるのが楽しみ」と抱負を語る。(津谷治英)

シヨパン国際ピアノコンクール チャイコフスキー国際(ロシア)、エリザベート王妃国際音楽(ベルギー)と並ぶ世界三大コンクール。「別れの曲」「英雄ポロネーズ」などの名曲を作り、ピアノの詩人と呼ばれたフリデリック・シヨパン(1810～49年)の功績をたたえ、母国創設。日本人は第8回(70年)の内田光子さんの2位が最高位。第12回(90年)ではな果山山幸雄さんが3位となり、日本人最年少入賞者となった。

医学部5回生「音楽でも患者癒やしたい」

つて心配してくれた主治医との出会いが、医師に憧れるきっかけとなった。一方、母のピアノに触れたのを機に小学1年から本格的に鍵盤に向き合い始めた。中学生になり、部活や友人と過ごす時間をピアノの練習に奪われることに一時疑問を感じたが、中2の時にコンクールで入賞し、関連の合宿で同年代の奏者と関わり、吹っ切れた。「実力のある友たちから刺激を受けた。また彼らと一緒に演奏したい」と再び音楽に向かった。高校入学後、2005年のシヨパンコンクール4位の関本昌平さんの指導を受け、学業の合間に練習を積んだ。海外の大会にも出場。ドイツから帰国する際の空港ロビーでストリートピアノを奏でた。初めて会う外国人から拍手を受け、「うれしくて、人前で弾くことが楽しくなった。同時に成績は優秀で、迷わず医学部を志す。「家を出るとピアノがなくなるなり、練習ができなくなる」と地元の大学に進んだ。何科の医師を目指すかは

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【 】

① 沢田蒼梧さんは何と何の「二刀流」を目指していますか。

の「二刀流」を目指す

② 出場するコンクールについて書きましょう。

ア コンクールの名前を書きましょう。

イ どこの国で何年に1度開催されますか。

年に1回開催される

ウ 世界三大コンクールの一つですが、ほかの二つのコンクール名を書きましょう。

エ この大会での日本人の成績を記事から書き、また調べましょう。

③ 沢田さんが8月に松方ホール音楽賞奨励賞を受賞した楽曲は何ですか。

④ あなたの夢はいろいろとあると思いますが「二刀流」を目指すとしたらどのような「二刀流」を目指しますか。

決めていない。だが、新型コロナウイルス禍を経験し疫学や公衆衛生学、地域医療の重要性に興味を持つ。5回生の現在、病院実習もこなす。年数回、演奏会に臨む生活。松方ホール音楽賞ではシヨパンの「葬送」を弾いて奨励賞を受賞した。シヨパンコンクール本番に向け、「結果が一番とは考えていない。ピアノを通じて人間として成長したい」と沢田さん。「将来は医師とピアノを両立し、音楽でも患者を癒やしたい」と誓った。